

NWQグローバル厳選証券ファンド 愛称：選択の達人

分配金のお知らせと足元の市場環境について

2021年9月21日

平素は、『NWQグローバル厳選証券ファンド（愛称：選択の達人）』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「為替ヘッジあり／隔月分配型」、「為替ヘッジなし／隔月分配型」、「為替ヘッジあり／資産成長型」および「為替ヘッジなし／資産成長型」は、2021年9月17日に決算を迎え、当期の収益分配金（1万口当たり、税引前。以下同じ。）をそれぞれ以下のとおりと致しましたことをご報告申し上げます。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

各コースの分配金（1万口当たり、税引前）

	為替ヘッジ あり／隔月 分配型	為替ヘッジ なし／隔月 分配型	為替ヘッジ あり／資産 成長型	為替ヘッジ なし／資産 成長型
当期決算 分配金	30円	70円	-	-
基準価額 2021年9月17日 現在	10,848円	10,443円	11,432円	11,747円

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社（大和アセット）が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

『NWQグローバル厳選証券ファンド（愛称：選択の達人）』の収益分配方針は、次のとおりです。

〔隔月分配型〕

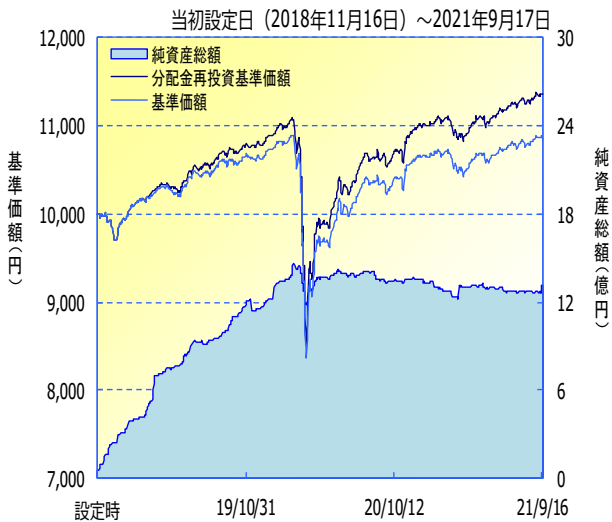
- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
- ②原則として、継続的な分配を行うことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

〔資産成長型〕

- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
- ②原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

基準価額・純資産の推移

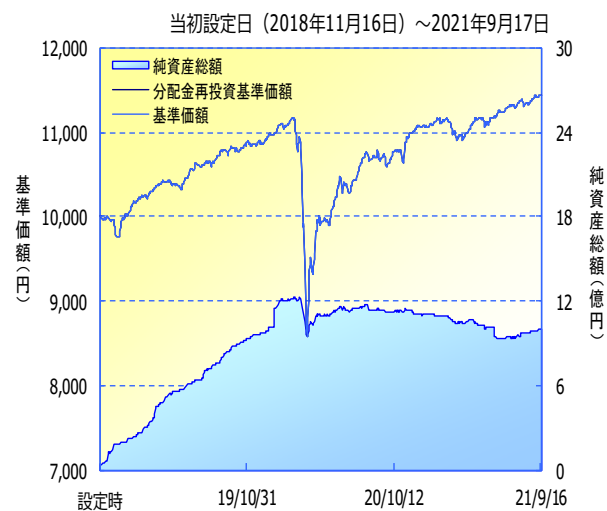
為替ヘッジあり／隔月分配型



為替ヘッジなし／隔月分配型



為替ヘッジあり／資産成長型



為替ヘッジなし／資産成長型



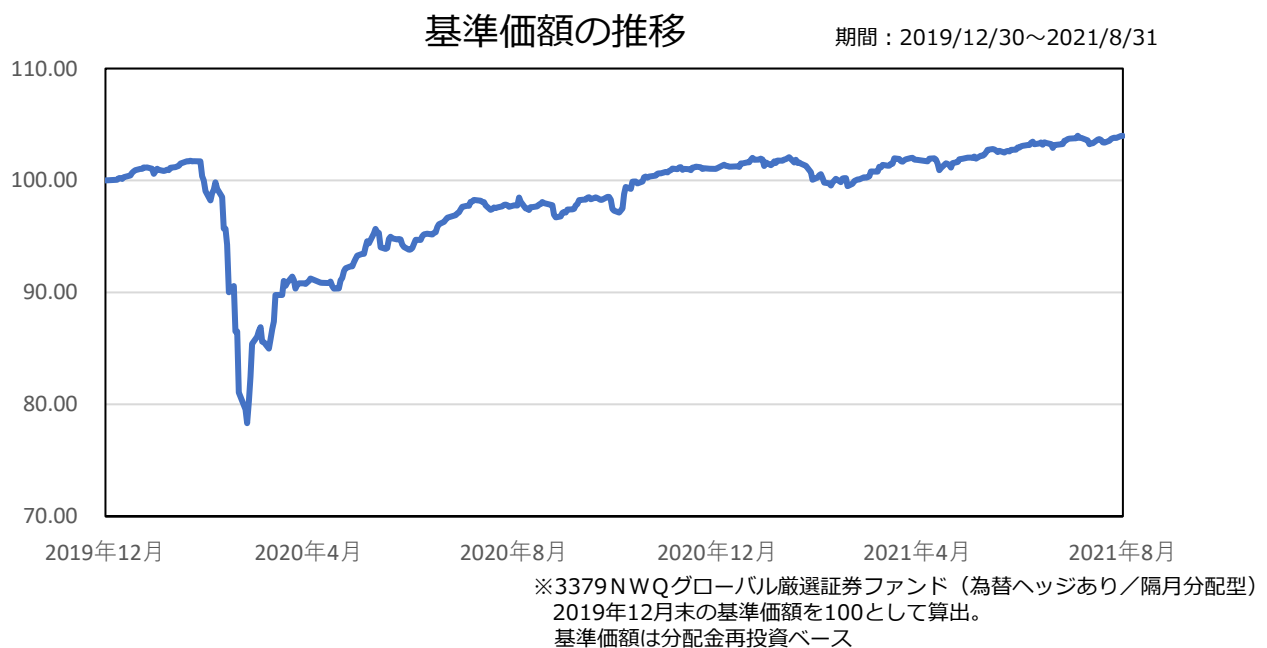
※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

👉 お伝えしたいポイント

- 2020年夏場までは、社債中心のポートフォリオで下落リスクを抑制
- 2020年11月以降は、転換社債、株式などの組み入れを引き上げ
- 現状は景気回復局面を想定し、金利上昇を意識したポートフォリオを構築



2020年夏場までは、社債中心のポートフォリオで下落リスクを抑制

当ファンドでは、コロナ禍前の2020年年初から債券を中心としたポートフォリオを構築し、下落リスクを抑制した運用を行ってまいりました。

2020年春のコロナ禍においては、外出規制や都市封鎖などによる影響を受けやすいエネルギーやレジャー関連企業が発行する債券を売却しました。一方、コロナ禍の悪影響を受けにくい通信やヘルスケア、公益関連企業が発行する債券などを中心に買付を行い、保守的なポートフォリオ構築を進め、コロナ禍に伴う当ファンドのパフォーマンスへの悪影響を抑制するように努めました。株式においては、年初から割高感があったため投資比率を抑えつつ、新型コロナウイルス感染拡大により、業績の先行きが不透明になった航空株を売却するなど更にリスク抑制を図りました。

その後、2020年4月以降の市場反発局面では、割安に放置された社債の組み入れを増やしていきました。特に強固な財務基盤を有している企業について魅力的な投資機会があると判断し、信用力に対して投資妙味のある大手自動車メーカーや婦人服メーカーなどのハイイールド債券を組み入れました。普通株式に関しては、引き続き慎重なスタンスで投資を控え、株式市場が上昇した利益相当部分に対しては、株式市場の価格変動の影響を受ける転換社債の価格上昇によって一部代替しました。

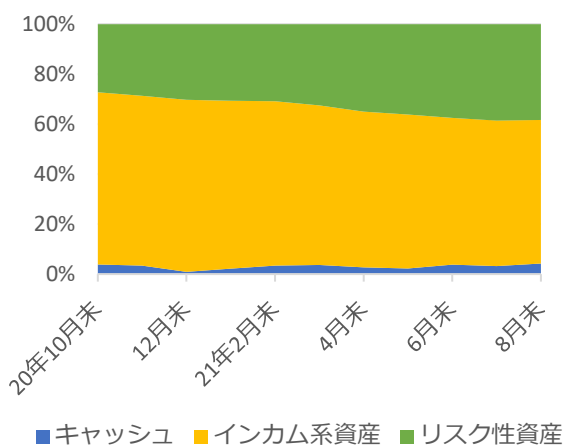
2020年11月以降は、転換社債、株式などの組み入れを引き上げ

■ リスク許容度の上昇に合わせ、転換社債、株式の組入比率を引き上げ

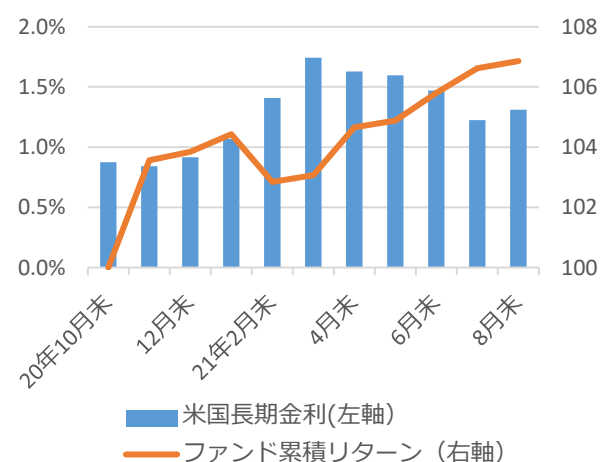
米国の大統領選挙を無事に消化した2020年11月以降は、米政府が大規模な景気刺激策を相次いで打ち出したことや、FRB（米国連邦準備制度理事会）の持続的な金融緩和策が投資家のリスク許容度を高めました。また、新型コロナウイルスのワクチン接種が全米に広がったことから、経済正常化に向けた期待も加速しました。このような環境下、当ファンドにおいては、すでに適正価格まで回復し金利上昇局面で価格下落が予想された投資適格社債などインカム系資産の利益確定売りを行い、転換社債や株式などリスク資産の組入比率を増やしました。（図1）

結果として、11月以降の長期金利上昇局面において、当ファンドのパフォーマンスは回復基調となっています。（図2）

（図1）資産別構成比



（図2）米国10年債利回りとファンド累積リターンの推移



※インカム系資産：投資適格社債、ハイイールド債券
リスク性資産：株式、転換社債、優先証券

※ファンド累積リターンは、3379NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／隔月分配型）2020年10月末の基準価額を100として算出。（分配金再投資ベース）

出所：エヌ・ダブリュー・キュー・インベストメント・マネジメント・カンパニー

■ 株式においては景気敏感な銘柄に投資

株式においては、大手IT企業などデジタル・トランスフォーメーションによる恩恵を受けられるグロース株が2020年の株式市場の上昇を牽引しました。しかし、直近では、グロース株のバリュエーションにやや割高感が見られており、バリュー株がグロース株をアウトパフォームする局面が散見されています。また、セクター別でも、景気敏感セクターに投資家の関心が集まっています。

当ファンドでは、今後の本格的な景気回復による恩恵が大きい外食チェーン、銀行、エネルギー関連の米国株式などをポートフォリオに組み入れました。

現状は景気回復局面を想定し、金利上昇を意識したポートフォリオを構築

■ 景気回復に伴い、インフレ率上昇、長期金利上昇に注意が必要

2021年初から、バイデン政権による追加景気刺激策への期待からリスク性資産全体に上昇がみられました。その後も、新型コロナウイルスに有効なワクチンの接種が進展し、全米各地で外出や経済活動の自粛規制などが緩和されました。足元は、デルタ株の感染拡大などから景気見通しにやや慎重な見方が出ているものの、今後はコロナ禍の収束、社会・経済の正常化へと進むとみています。NWQ社では、今後緩やかな長期金利上昇が進むと予想していますが、大規模な財政出動による副作用として、中長期的にみたインフレ率の上昇、急速な長期金利上昇などにも注意していく必要があると考えます。

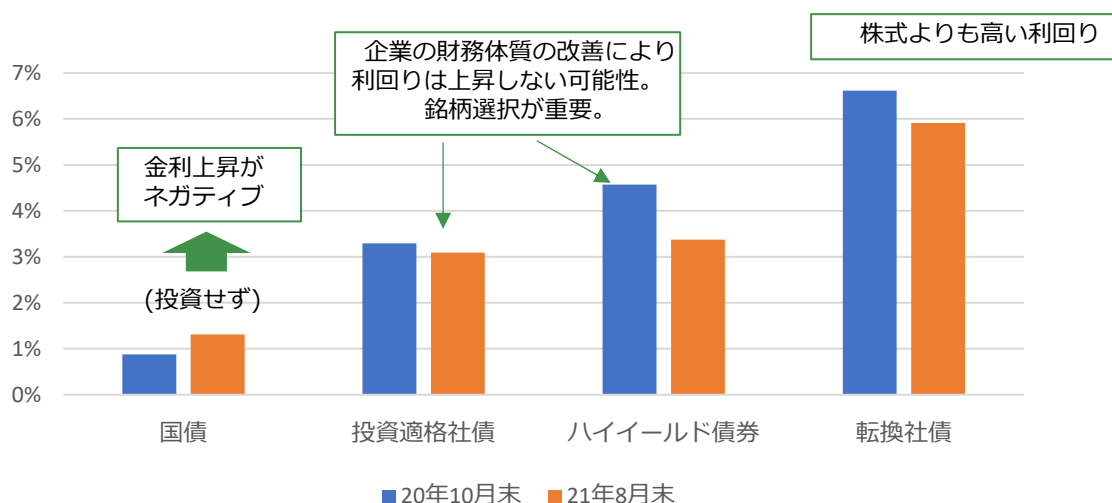
■ ボトムアップにより有望な銘柄を選択しながら、景気敏感な株式や転換社債に投資継続

NWQ社では、足元において、デルタ株の感染拡大などの影響から、世界経済の減速をめぐる懸念が広がっているものの、中長期的に、経済成長見通しは堅調であり、経済活動は再加速すると予想しています。引き続き、中長期的な景気回復を想定し、米国経済の回復に伴う金利上昇リスクに注意して運用していきます。企業利益の税制改革やインフラ投資政策の動向、インフレ率の推移、FRB（米国連邦準備制度理事会）によるテーパリングや利上げ時期などに注意を払っております。

当ファンドでは、社債中心のポートフォリオ運用を続けていますが、金利上昇を想定し、すでに債券ポートフォリオ全体のデュレーションを5年程度にまで留め、リスクを抑制しています。

NWQ社では、経済環境を踏まえて柔軟にポートフォリオを変更しています。投資適格社債やハイイールド債券の利回りは、最近の米国国債の金利上昇局面においても、安定しています（下図参照）。投資適格社債やハイイールド債券の信用力が評価され、信用スプレッドが縮小したことなどが要因であります。これにはボトムアップで財務面の改善を正しく評価することが重要になります。今後も、このような環境が続くと考え、引き続きボトムアップでの銘柄選択に努めてまいります。

保有資産の利回り水準とNWQ社の視点



※ 国債は米国10年債利回り。投資適格社債・ハイイールド債券・転換社債は、当ファンドの投資対象ファンドが保有する債券の最終利回りを保有ウェイトに基づき加重平均して算出した最終利回り

■ 株式においては、景気敏感なバリュー株を選好

下図の通り、2020年11月以降はワクチン開発の進展に伴って経済正常化期待が高まる中でリスク資産選好の動きが活発化し、株式においてはバリュー株が優位な状況が続きました。足元において、世界経済の減速懸念などを受けて長期金利が低下したことなどからグロース株が持ち直しつつあるものの、当ファンドにおいては、中長期的にバリュー株に投資妙味があるとみて、エネルギー、消費関連のバリュー株への投資を継続して行っております。

ハイテク株などのグロース株は配当利回りがゼロもしくは非常に低位である中、バリュエーションの観点からもやや割高感が見られることから、さらなる上昇余地は限定的であるとみています。その一方で、経済活動の正常化に伴い、今後は景気敏感なバリュー株に投資妙味があると考えています。引き続き、徹底的なボトム・アップ・アプローチに伴うファンダメンタル分析を通じた銘柄選択によってリターンの向上を目指してまいります。

バリュー株とグロース株のパフォーマンス推移

(2020年10月30日～2021年8月31日)



(出所) Bloomberg

※バリュー株はラッセル1000バリュー株指数、グロース株はラッセル1000グロース株指数を使用（米ドルベース）。
2020年10月末を100として指数化。

＜個別銘柄の投資事例＞

■ アライ・ファイナンシャル（優先証券） 4.7% 無期限 米ドル建

STEP①：企業選択

同社の自動車ローン事業の成長性、また利益率の改善に精力的に取り組んでいることを高く評価して同社を選択。

同社はフランチャイズ網の拡大に努め、ローンを安定的に提供できる基盤を整備したことで、利益率の改善、貸倒率、延滞率の低下など提供ローンの質の向上がみられ、また銀行が財務体質の改善を優先し自動車ローンの提供に消極的になっていることから、同社が手掛けるローンの増加が見込まれる。

事業内容

自動車ディーラー及びその顧客向けに、金融商品・金融サービスを提供する自動車金融サービス会社。同社の主な事業は、自動車金融、保険事業とローン業務などである。本社はミシガン州デトロイト。

STEP②：証券選択

優先証券に注目

優先証券は、社債と比較するとデフォルトした際の弁済順位において劣後するものの、利回りが社債より高いといった特徴があります。

同社は4月に優先証券を発行しました。当銘柄はクーポン4.7%と同社の投資適格社債（1.5%）対比で高い利回りが享受でき、市場でも堅調に推移しております。（下図）

また、普通株式の配当利回りも1.5%となっているため、当優先証券は当発行体の他の資産クラス対比高位なインカム収入の享受が可能であり、信用力も改善傾向にあると判断し、優先証券に投資しています。

■ アライ・ファイナンシャル優先証券と投資適格社債の推移

（2021年4月19日～2021年8月31日）



※2021年4月19日（優先証券の発行日）を100として指数化。
投資適格社債は、4.625% 2025年3月30日償還 米ドル建、トータルリターンベース

（出所）Bloomberg

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

改めてお伝えしたい、当ファンドの3つのポイント

POINT

1

債券並みのリスクで株式並みのリターン

POINT

2

有望企業が発行する株式、債券、優先証券、転換社債から
低いリスクと高いリターンが期待される最適な証券を選択

POINT

3

高いインカム収入がパフォーマンスを下支え

当ファンドの運用を行なう

NWQインベストメント・マネジメント・カンパニーについて



世界最大級の年金運用機関

TIAA

(全米大学教職員保険年金協会)



nuveen

A TIAA Company

TIAAの資産運用部門

NUVEEN LLC

(スビン)

NWQ
from nuveen

企業分析、バリュー投資のスペシャリスト

NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー

運用資産残高：約115億米ドル（約1.3兆円*） 従業員：37人（内、運用担当21人）

業界経験年数：平均約21年 運用チームの企業訪問数：約1,200件（2020年）

当ファンドの類似戦略のアナリスト人員数：株式／17人、株式以外／4人

※2021年3月末時点。*換算為替レートは、（2021年3月末時点のレート）1米ドル=110.72円。

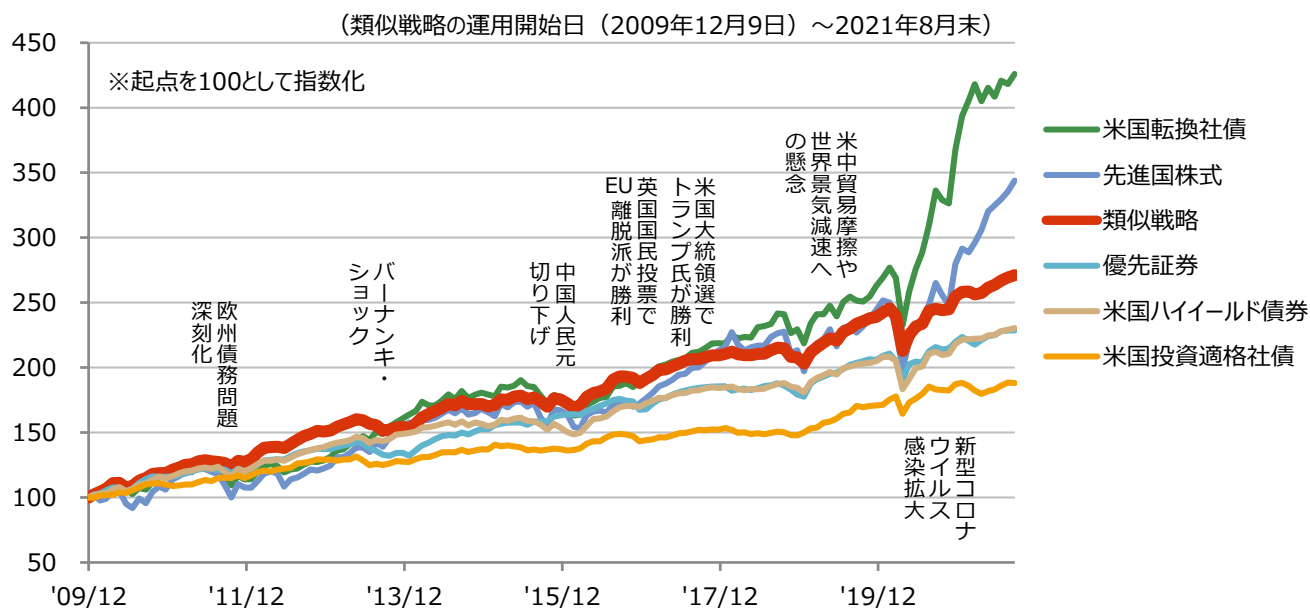
（出所）NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー

Point 1. 債券並みのリスクで株式並みのリターン

当ファンドの類似戦略は世界の米ドル建資産（株式、債券、優先証券など）に投資しています。

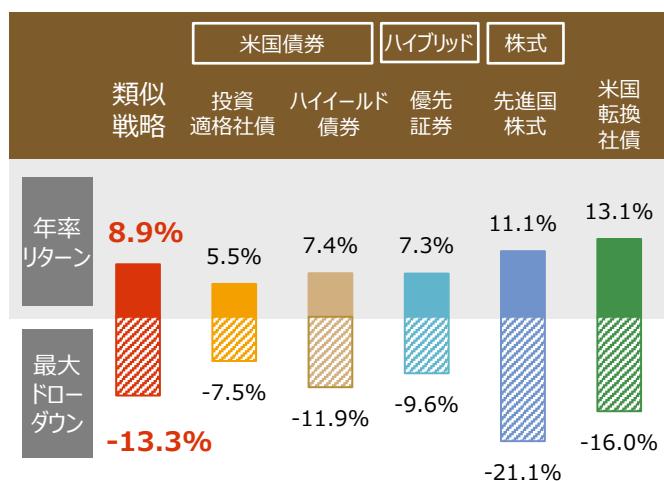
新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく調整したものの、過去、市場が大きく変化する中において、安定的なパフォーマンスを実現してきました。

当ファンドの類似戦略のパフォーマンス推移



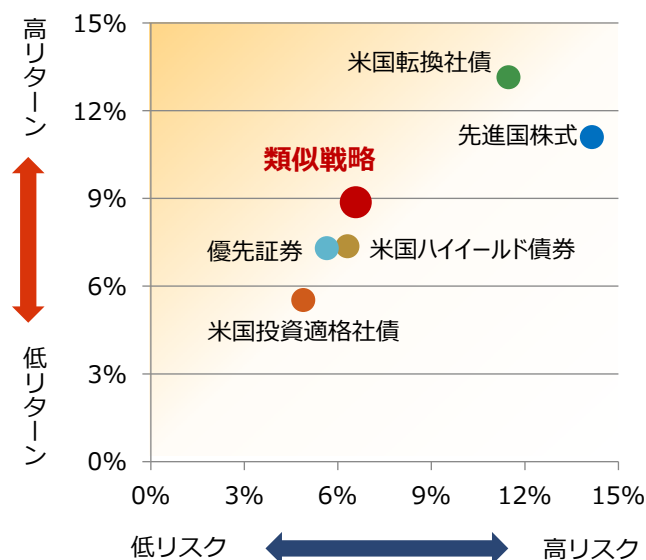
当ファンドの類似戦略の最大ドロウダウン

(類似戦略の運用開始日（2009年12月9日）～2021年8月末）



当ファンドの類似戦略のリスク・リターン特性

(類似戦略の運用開始日（2009年12月9日）～2021年8月末）



*最大ドロウダウン：過去の資産価格のピーク時からどれだけ下落したかを示します。その資産の安定性を図る尺度として使われます。
 ※上記資産はそれぞれ異なるリスク特性を持ちます。※類似戦略は米ドルベース、費用控除前のパフォーマンス。※類似戦略は、当ファンドと同様の運用手法を用いた類似ファンドの過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※各資産は米ドルベース、トータルリターン。※「先進国株式」はMSCI World Index、「米国投資適格社債」はICE BofAML US Corporate Index、「米国ハイイールド債券」はICE BofAML BB-B US High Yield Index、「優先証券」はICE BofAML Fixed Rate Preferred Securities Index、「米国転換社債」はICE BofAML US Convertible Indexを使用。
 (出所) NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー、ブルームバーグ

Point 2. 有望企業が発行する株式、債券、優先証券、転換社債から低いリスクと高いリターンが期待される最適な証券を選択

当ファンドは、マクロ環境の見通しに基づいて資産配分を行なう一般的なバランス型ファンドとは異なり、徹底した調査・分析に基づいて有望企業を選択し、その企業が発行する複数証券の中から、最も投資効率が良い（＝リスク調整後の期待リターンが高い）証券に投資します。

このような独自の投資戦略により、引き続き高水準のインカムと魅力的なリスク調整後リターンの獲得をめざします。

債券並みのリスク・株式並みのリターンを追求する選択方法

選択の達人

徹底した企業分析を重視する**ボトムアップ・アプローチ**

“有望企業”の“最適な証券”を厳選し、ポートフォリオを構築

債券並みのリスク・株式並みのリターンを追求

ポートフォリオ

株式

債券

優先証券

転換社債

ステップ2

“最適な証券”
の選択

同一企業が発行する複数証券の中から、最適な証券を選択

A社

株式

債券

優先証券

転換社債

C社

株式

債券

優先証券

転換社債

E社

株式

債券

優先証券

転換社債

ステップ1

“有望企業”
の選択

A社

B社

C社

D社

E社

バリュート投資に定評がある株式リサーチチームの企業分析により有望企業を選択

（ご参考）
一般的なバランスファンド

マクロ経済分析を重視する**トップダウン・アプローチ**

経済見通しに基づきポートフォリオを構築

ステップ1 マクロ経済の分析

景気、金利など市場環境を分析し、資産配分を決定

ステップ2 各資産内で投資銘柄を選定

魅力度に応じて各資産クラスの中で投資銘柄を調整

ポートフォリオ

株式

債券

優先
証券

転換
社債

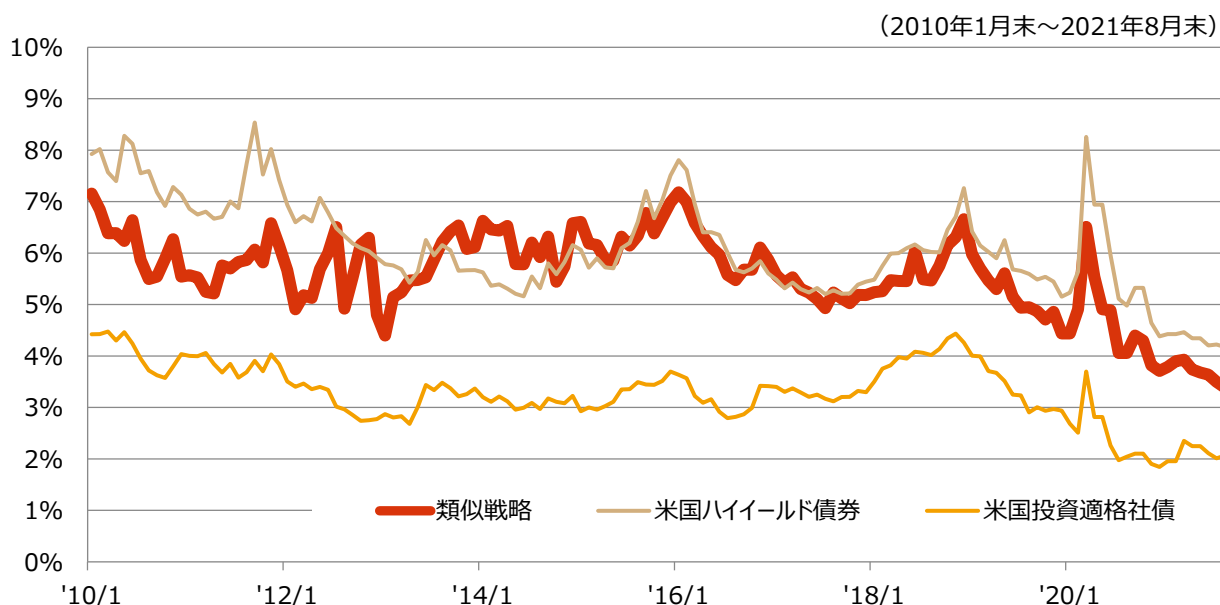
※上記は資料作成時点のものであり、今後見直す場合があります。※上図はイメージです。

（出所）NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー

Point 3. 高いインカム収入がパフォーマンスを下支え

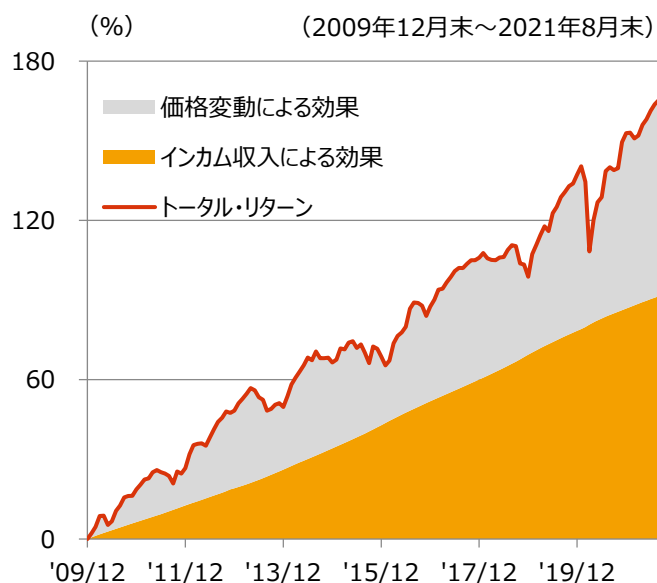
当ファンドの類似戦略の利回りは、相対的に高い水準を維持してきました。

利回りの推移



相対的に高いインカムの積み上げがパフォーマンスを下支えし、当ファンドの類似戦略は累積でプラスのトータル・リターンをあげています。

当ファンドの類似戦略のリターンの要因分析



(2010年～2021年)

トータル・リターン		①インカム収入	②価格変動
2010	18.7%	6.4%	12.3%
2011	6.7%	5.9%	0.8%
2012	17.1%	5.7%	11.4%
2013	0.9%	5.9%	-4.9%
2014	11.2%	6.3%	4.9%
2015	1.4%	6.5%	-5.2%
2016	11.1%	6.3%	4.8%
2017	9.9%	5.4%	4.5%
2018	-3.5%	5.9%	-9.4%
2019	19.4%	5.3%	14.1%
2020	6.5%	4.7%	1.8%
2021	4.9%	2.5%	2.4%
累積	165.3%	91.4%	73.9%

* 2021年は8月までのデータ。

※上記資産はそれぞれ異なるリスク特性を持つものであり、利回りの比較はあくまでご参考です。※利回りは最終利回りを使用。※類似戦略は米ドルベース、費用控除前のパフォーマンス。※類似戦略は、当ファンドと同様の運用手法を用いた類似ファンドの過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※「米国投資適格社債」はICE BofAML US Corporate Index、「米国ハイイールド債券」はICE BofAML BB-B US High Yield Indexを使用。

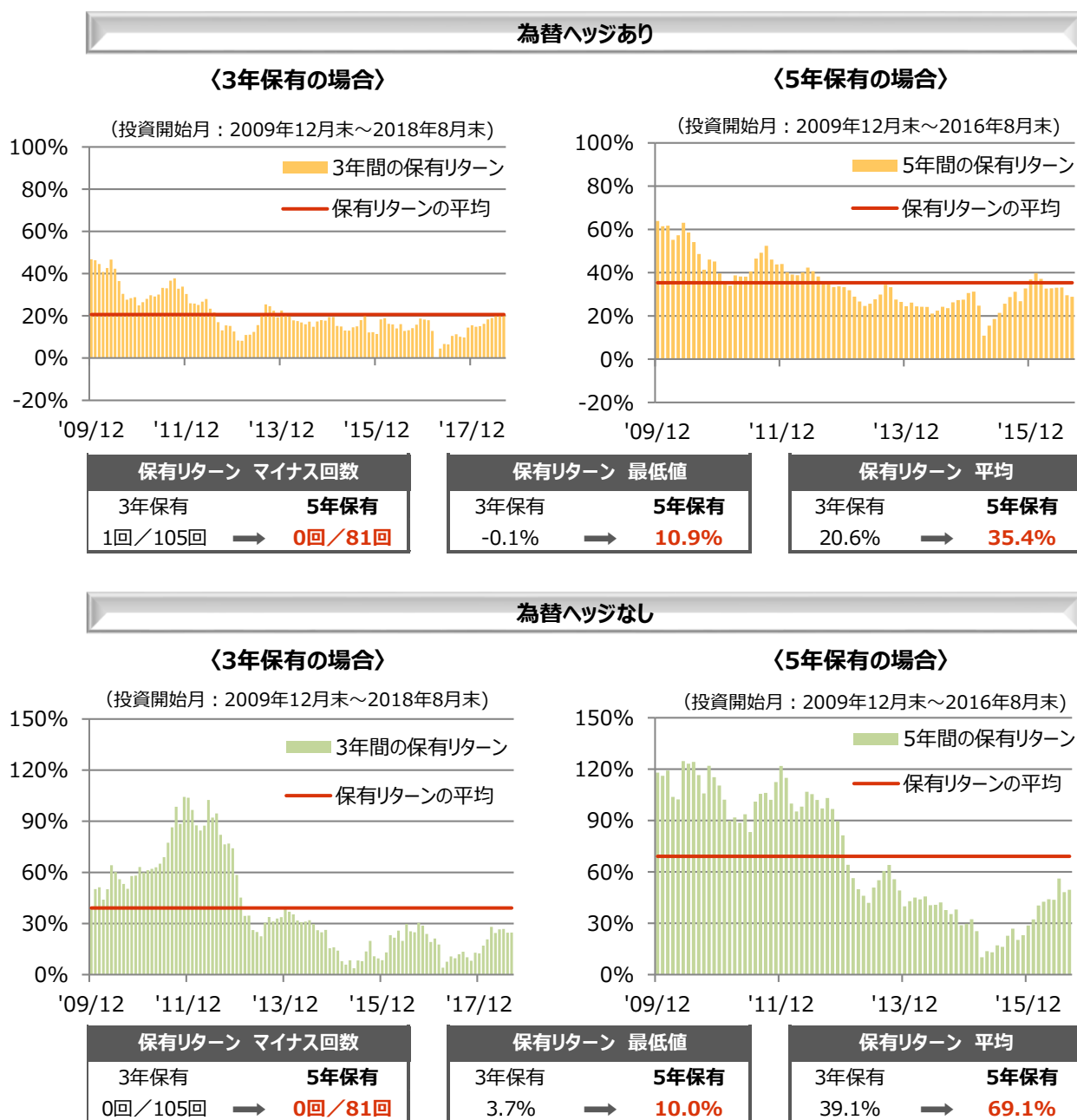
(出所) NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー、ブルームバーグ

(ご参考) 長期保有で安定したリターンを獲得

当ファンドの類似戦略は、相対的に高いインカムの積み上げにより、5年間継続保有したと仮定した場合、「為替ヘッジあり」「為替ヘッジなし」のいずれにおいても全期間プラスのリターンとなりました。

当ファンドの特徴である高いインカムは、時間の経過とともに安定的に積み上がっていくため、長期保有によってその効果を最大限に享受することができます。

類似戦略の保有期間別リターン



※「3年間の保有リターン」において、例えば、「為替ヘッジあり」の'09/12の保有リターンは、2009年12月末から2012年12月末までの3年間保有したと仮定したリターン。「5年間の保有リターン」において、例えば、「為替ヘッジあり」の'09/12の保有リターンは、2009年12月末から2014年12月末までの5年間保有したと仮定したリターン。※「為替ヘッジなし」は円換算ベース。※上記の類似戦略は、当ファンドの投資対象ファンドである「グローバル・マルチ・ストラテジー・ヌビーン・エヌ・ダブリュー・キュー・フレキシブル・インカム・ファンド（円ヘッジ・クラス）（ヘッジなし・クラス）」と同様の運用チーム、投資哲学により運用された類似ファンドの米ドルベース、費用控除前のパフォーマンスを円ベースに換算した結果を表しており、当ファンドの運用実績とは異なります。また、あくまでも参考のために掲載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドとは異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※「為替ヘッジあり」は為替ヘッジコストを考慮しています。

(出所) NWQインベストメント・マネジメント・カンパニー、ブルームバーグ

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

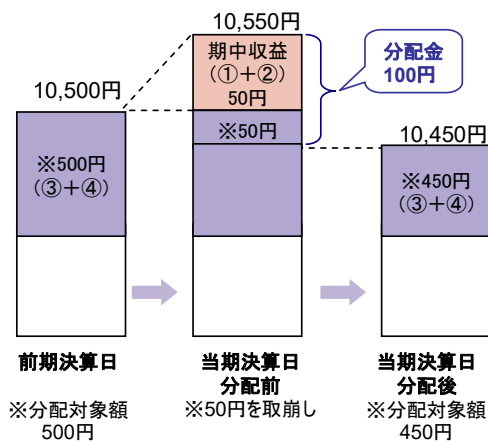
投資信託で分配金が支払われるイメージ



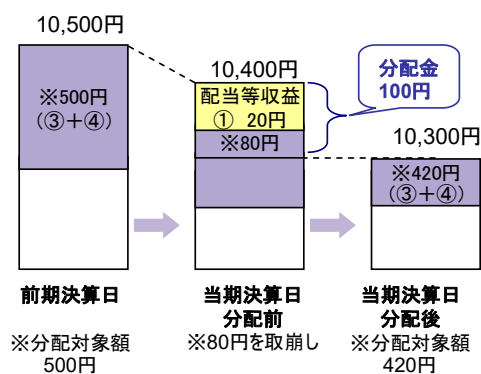
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



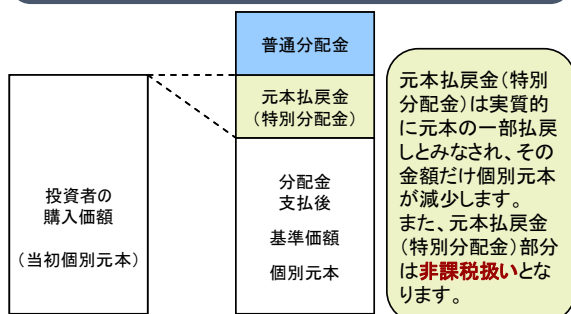
前期決算日から基準価額が下落した場合



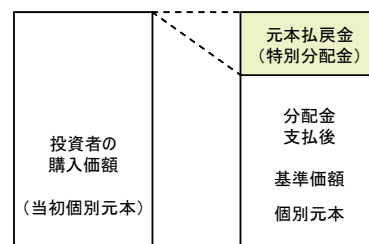
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

Ⅰ ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 世界の米ドル建資産に投資を行ない、高水準のインカムと魅力的なリスク調整後リターンを追求することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

1. 世界の米ドル建資産（株式、債券、優先証券など）に投資します。投資にあたっては、有望企業を選別のうえ、その企業が発行する証券の中で相対的に魅力度の高い証券を選択します。
 - ◆ ボトムアップ・アプローチにより、個別企業の財務状況、成長性や価格変動のきっかけとなる事象などに着目した評価・分析を行ない、有望企業を選別します。
 - ◆ 同一企業が異なるタイプの証券を発行している場合は、リスク・リターン効率などに着目して、相対的に魅力度の高い証券に投資します。
 - ◆ 運用は、エヌ・ダブリュー・キュー・インベストメント・マネジメント・カンパニーが行ないます。

2. 「為替ヘッジあり／隔月分配型」「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」「為替ヘッジなし／資産成長型」の4つのファンドがあります。

為替ヘッジあり／隔月分配型、為替ヘッジあり／資産成長型

- ◆ 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

為替ヘッジなし／隔月分配型、為替ヘッジなし／資産成長型

- ◆ 為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

基準価額は、為替変動の影響を直接受けます。

販売会社によっては「為替ヘッジあり／隔月分配型」「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」「為替ヘッジなし／資産成長型」のいずれかのお取扱いとなる場合があります。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

3. [隔月分配型] は年 6 回、[資産成長型] は年 2 回決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

[隔月分配型]

毎年 1、3、5、7、9、11 月の各 17 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

※第 1 計算期間は、2019 年 3 月 17 日（休業日の場合翌営業日）までとします。

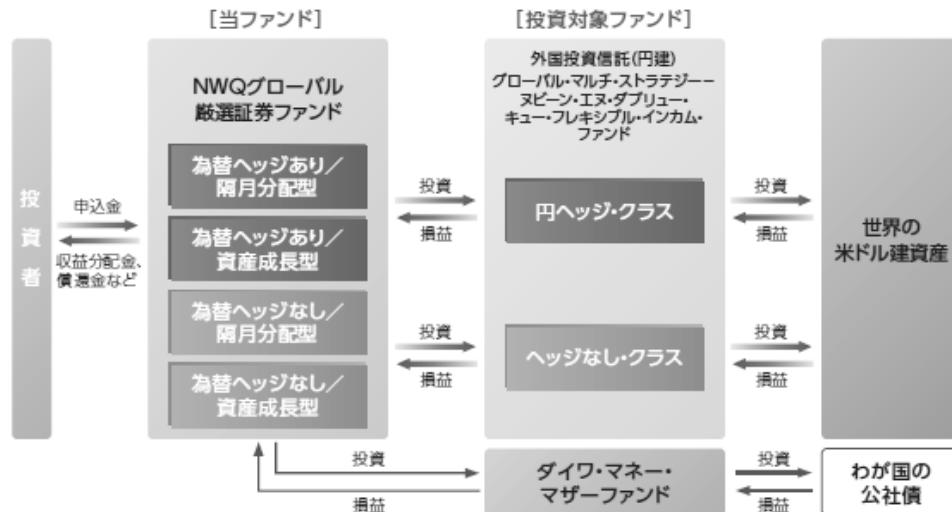
[資産成長型]

毎年 3 月 17 日および 9 月 17 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

※第 1 計算期間は、2019 年 3 月 17 日（休業日の場合翌営業日）までとします。

ファンドの目的・特色

4. 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
外国投資信託の受益証券を通じて、世界の米ドル建資産に投資します。



- ◆ 各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
- ① NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／隔月分配型）：為替ヘッジあり／隔月分配型
- ② NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジなし／隔月分配型）：為替ヘッジなし／隔月分配型
- ③ NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／資産成長型）：為替ヘッジあり／資産成長型
- ④ NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジなし／資産成長型）：為替ヘッジなし／資産成長型
- ◆ ①②の総称を「隔月分配型」とします。
- ◆ ③④の総称を「資産成長型」とします。
- ◆ ①②③④の総称を「NWQグローバル厳選証券ファンド」とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、その他の価格変動）」、「為替変動リスク」、「コンントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※「為替ヘッジあり／隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」は、為替ヘッジを行ないませんが、影響をすべて排除できるわけではありません。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジなし／資産成長型」は、為替ヘッジを行なわないので、基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

Ⅰ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限) 2.2%(税抜 2.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.1275% (税抜 1.025%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.55%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	年率 1.6775% (税込) 程度	
その他の費用・手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問い合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

加入協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／隔月分配型）（為替ヘッジなし／隔月分配型）
（愛称：選択の達人） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○		○
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／資産成長型）（為替ヘッジなし／資産成長型）
（愛称：選択の達人） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○		○